

第1回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和2年6月29日（月）19:00～20:30

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員、磯崎委員、伊藤委員、大池委員、小栗委員、河村委員、北川委員、
シェリー委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、村田委員、渡瀬委員
（五十音順）

市側：染谷市長、牛尾副市長

事務局：鈴木市長戦略部長、駒形戦略推進課長、興津係長、永田主事、酒井主事、榊原主事、
服部主事

傍聴者 1人

4 内容

（開会～委嘱状交付）

会議に先立ち、染谷市長から出席委員に対し、審議会委員の委嘱状を交付。

（委員紹介）

進行役の興津係長より委員の紹介。

（会長・副会長の選出）

委員互選による会長・副会長の選出。

中根委員より、池上委員を会長に、村田委員を副会長にとの発言あり。

異議なく満場一致により池上重弘氏を会長に、村田共績氏を副会長に選出。

⇒それぞれ会長席、副会長席に移動。

（市長諮問）

染谷市長から審議会会長へ

- ・第2次島田市総合計画基本構想に基づく後期基本計画策定に関すること
に対して意見を求めることについて諮問。

染谷市長が諮問書を読み上げ、池上会長に手交。

(染谷市長あいさつ)

- ・総合計画とは島田市民の皆様へ安全・安心に暮らしてもらうために、様々なサービスの提供方法、公共施設の整備や民間活力を誘導する方向性や地域の在り方をはじめとして、島田市を運営していくための中長期の方針を描いた、島田市にとって最上位の計画であり、島田市を引っ張っていく羅針盤である。
- ・総合計画は一本筋の通ったもので、時代や社会の情勢にマッチしたものでなければならない。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響が多岐におよび、これからの生活の在り方や、社会の在り方を根本的に見直す必要が生じてきた。
- ・新型コロナウイルスと向き合い、共存しながら感染拡大前の日常にできるだけ近づくとともに、新しい生活様式を踏まえながら、地域経済の回復、そして継続に力を注ぎ、市民の皆様がここに暮らす幸せを生活の中で実感していただきたい。
- ・これまで、島田市の総合計画に「多文化共生」というフレーズは載っていなかった。池上先生は「多文化共生」の専門家であり、そうした池上先生の視点を総合計画後期基本計画に生かしていただきたい。
- ・今島田市は高齢化率が31%だが、今の高齢者は子どもなど身寄りがあるし、まだ住み慣れた場所で暮らし続けることができる。
- ・2040年を過ぎると日本は高齢化率が下がり人口は減っていく。
- ・今の問題として生涯未婚率(50歳になるまで一度も結婚したことがない人)が男性で3割近く、女性で16~17%いる。こういう人たちが高齢化したときは、子どもも、身寄りもない高齢者が増えていく。男性と女性が結婚しない理由はずいぶん違うだろうと思っているが、こうした分析もこのまちに若い人たちを呼び込むための施策として大事な視点だと思う。
- ・今解決できることばかりではないが、まちづくりを担う者として英知を結集し、市民生活の豊かさを最優先に考えて突き進めていく。委員の皆様とともに策定する総合計画後期基本計画においてその思い、強いメッセージを表現していただきたいし、私も表現していきたい。
- ・策定の過程においてはワークショップの開催や市民アンケートの実施など、市民や事業者、各種団体の皆様の御意見を大切に取り扱い、後期基本計画に反映させていきたい。
- ・1年半の長い期間になるが、皆様の御協力を重ねてお願いしたい。

(会長あいさつ)

- ・私の専門は「多文化共生論」で、元々の専門は「文化人類学」である。
- ・私は1996年から静岡県に住んでいるが、生まれと育ちは北海道である。
- ・行政分野の研究の専門家ではないが、縁あって静岡県や浜松市、掛川市、磐田市の会議や、湖西市の総合計画審議会に役目をいただいている。島田市でも力になることができるのではないかと引き受けた。
- ・今回審議会の委員を引き受けるに際して、いくつか島田市について伺った。これまで力を入れてこなかった「多文化共生」の開放型の社会にしていくこと、子育て層に選んでもらうまちになること、高齢者が幸せを感じて生きていけるまちづくりを目指している。
- ・島田市のことについては今日出席の皆様のほうがはるかに詳しいと思う。私は中身について、こうあるべきだとかこうすべきだという意見は言わないようにしたいと思う。むしろ私がやる

べきことは、皆様が活発に御発言できるような雰囲気づくり、ずっとここにいる方が気付かないような外から見た島田の魅力、島田の課題について力添えできればと思っている。

- ・ 1年半と長い時間だが、私も一委員として、皆様と後期基本計画を素晴らしいものにしたいと思っている。

(事務局自己紹介)

牛尾副市長、鈴木市長戦略部長、駒形戦略推進課長、興津係長、永田主事、酒井主事、榊原主事、服部主事

(議題)

(1) 島田市総合計画審議会の役割について (基本的な方向性)

資料5に基づき、駒形戦略推進課長より説明。全体スケジュールを興津係長が説明。総合計画の策定体制を榊原主事が説明。

【質疑応答】

- ・ 質問なし

(2) 島田市を取り巻く状況と今後の方向性について (主要課題について)

当日配付資料とパワーポイントを用いて駒形戦略推進課長より説明。

会長 長：島田市の概要をお聞きいただいた。今説明があったこと、それから染谷市長から市政に係る補足などがあればそれを伺い意見交換に進みたい。

(3) 市長と審議会委員との意見交換

染谷 市長：行政は究極のサービス業を営む会社であると同時に島田市の将来に対して投資する市内最大の投資会社であるということ。目先のことだけでなく、10年先、20年先のまちをどういうまちにしていくなかという計画をもってやっていかなければならない。大きな視点を持ってやっていかねばならず、今10年先の島田のために何を選択したらいいのか決断する、選択することが私たち市の職員の仕事だと言ってきた。自分自身は、市長でいる時の役割は何かと問われたら、人材育成と持続可能な財政運営をすることだと思う。そのことが次の世代の人たちに島田を選んでもらうために必要なラインだと思っている。

人口減少の克服から適合へという言葉があったが、悪いことばかりに捉えるのではなく、江戸時代から平成までのわずか100年ほどの間に3,000万人から1億2,700万人に人口は増えたが、この約100年が日本の長い歴史の中で特別な時代だったと思う。またこれから1億人を切っていくような社会に戻っていく。

島田市ではコンパクト・プラス・ネットワークということで、まちづくりはどのようなふうにあるべきかというようなこともしている。

人間関係も変わり、科学・技術もすごく発展してきた。島田市もこの春から、デジタルトランスフォーメーション推進課をつくった。ロボットでできる仕事はほとんどロボットでやるという形になっていく。市民の皆様は、デジタルトランスフォー

メーションの恩恵が行くように、私たちは様々な新しい分野に挑戦している。究極のところまちをつくるのはそこに住む人たちで、島田を大好きだと思ってくれないければ、いいまちになるわけがない。私は一番基本のところはそこだと思う。我がまちを好きだと思ふ人をどれだけ増やせるか、そして自分の住んでいるまちを自慢したくなるような市民、地域をどうつくっていくかということだと思う。外から来た人に自慢したくなるまちにするためには、市民一人ひとりが変わっていかなければならないと思う。

もう一言、言わせていただきたいのは時代の変化ということ。例えば、昭和の高度経済成長期の時代は人口が爆発的に増えていって、農村から出てきた人たちが工業、商業、サービス業に就いて、一人ひとりの生産がずっと上がってきた時、税金をたくさん納めていただいた。それで地域のコミュニティの仕事や草刈りなどは、代わりにまちが引き受けますよという時代があった。そうやって行政は地域の道路の草刈りだとか、掃除から、木の剪定など何から何までやってきた。

しかし、人口が減っていく、税収が減っていく時代に、今までと同じことは行政はやれなくなった。行政にできることには限りがあると私はこの頃言っている。では限りがあることでどうするのかといえば、地域の方たちが自分たちのまちをどう関わって変えていくのか。自分たちにできることは何なのか。そういうことをやっていかないと、全部行政にお任せではいいまちはつくれない。そういう意識改革をしながらまちづくりをしていきたいと思っている。

会 長：まず最初に前回の審議会との接続、関連など村田副会長から一言いただけるか。

副 会 長：2回目の選出をいただいたが、やはり総合計画は行政だけで決めていくものではない。みなさんと各種団体の意見等が入ってこそいい計画になると思う。難しいところもあると思うが、みなさんの特性を生かした、得意だと思ふところでのいいのでリラックスして意見をいただければと思う。

私は3人娘がいるが、3人とも東京にいる。なぜ島田で就職しないのかと聞くと、やはり魅力というかやりたい仕事があると言われた。魅力のある島田市にするためにはどのようにしていくか、何にもしなければ6万人になってしまうところを8万人するためにどうしたらよいかということでみなさんから意見が出ればと思う。

前回のことはうる覚えではあるが、ざっくばらんな忌憚のない意見がみなさんから出ればいいと思う。長期戦になるが皆さんと楽しくやれればと思っている。

会 長：島田の新しいトピックで何か御意見あるか。デジタル関係であるか。

A 委 員：広報しまだを見て興味があったのは、小中学校にタブレットを配付するということですごくいいことをするんだなと思った。これはどれくらいの範囲で、またどうしていくためにこのようなことをすることになったのか教えてほしい。

染谷 市長：小中学生に一人一台タブレット端末をとということで、タブレット端末というかキーボードもついているものになるが、これを令和2年度中の予算に全額計上している。令和元年度の予算で各教室に高速通信ネットワークを付ける予算をとってある。それが繰越明許で今工事することになっている。これからパソコン端末に約8億円を

かけて一人一台、子どもの数で 7,500 人、そして教師の分も入れると 7,800 台～7,900 台くらいのパソコンを購入する予定である。

おとしはすべての学校にエアコンを付けてかなりお金がかかったが、やはりこれから島田が選ばれるまちになる、子育て世代の方たちに選ばれるまちになるには、小さな子どもたちの子育ての環境と同時に、教育の環境がすごく大事である。そして、コロナ禍にあって、オンラインで授業ができる、学べる環境がよそにあって島田にないというわけにはいかない。最優先で、今年度中に小中学生にパソコン一人一台をとということで予算化した。

ただし、課題もある。一人一台端末があっても、自宅で Wi-Fi が使える家は 50%～70%。3割から 5割の方が使えない。家庭でスマホしか使っていない。Wi-Fi の通信ネットワークがないところにタブレットを持ち帰ってもオンライン授業はできない。それから、教師もオンライン授業に慣れていないため、オンライン授業のスキルを上げていかなければならないし、そうしたオンラインの教育を推進するための専門の支援員をつけていかなければならない。ハードだけでなく、しっかりと備えていきたい。このコロナ禍にあって、デジタルトランスフォーメーションを推進しようとしているまちとして、教育の環境の整備はまず第一にやるべきことだということ。

本当は 4 年間（令和 2 年～令和 5 年）かけて整備する予定であったものだが、1 年で前倒しすることに決めた。

会 長：子育て世代というのが島田で重要なキーワードになっているが、子育ての関係で御発言ある方はいるか。

B 委 員：島田ゆめ・みらいパークに先日子連れで訪れたが、とてもいいところだと思った。また、島田市から静岡に転出してしまったママ友が、静岡市の友達を連れてきてくれた。他のまちから来られる方に対するアピールポイントとしてもすごく使える場所だなと思った。遊具だけでなく広報をそこで行うのはどうかと思った。もしそれができるのであればとても効果的である。子育て世代に話題になると口コミで広がる。今後広告費を払わなくても勝手に広がっていく。そこでできることはもっとあるのではと思う。

コロナウイルスの関係で、トイレなどに感染防止強化月間としてアルコール消毒液と石鹼を設置しますと書いてあった。それは期限を延ばす方がいいと思う。マイ石鹼を持ち歩きましょうとも書いてあったが、持ち歩く人たちがばかりが来るのではないので常設の方がいいのではないかと思う。私は看護師をしていて、予防に勝る治療はないと言われている。健康増進するのにあたって、予防の観点をもっと取り入れてもいいのではないか感じた。もしよければ参考にしたい。

染谷 市長：島田ゆめ・みらいパークもハード面で整備しただけではなく、今御提案いただいたように、パークをどういうふうに使っていくかというソフト面での活用をもっと考えていかなければいけないと思っている。もうすぐ、防犯カメラなどを設置することになっているので、皆さんの安全対策とともに、アルコール消毒についても 6 月以降もずっと置くと思う。

島田ゆめ・みらいパークに限らず、駅前には室内で遊べるこども館がある。こちら
も、2時間で総入れ替えして、一回ごと全部消毒し、次の人を迎えるやり方をして
いる。市内の利用者3割、市外は7割である。電車に乗って外から来る人が多い。
ゆめ・みらいパークも外から来られる方がかなり多い。今お母さんたちはいいとこ
ろがあると聞くと距離など関係なく移動する。いいものがあるとSNSですぐに拡
散する。そうしたお母さんたちの思考というか、求めるものを考えていかなければ
ならない。

それからお母さんたちはよく近くに公園が必要と言うが、小さなミニパークでは満
足しない。駐車場があって、トイレがあって、食事もできるようなそういうものを
望んでいる。近くに公園があったらという思いと、本当に求めているものはどうい
うものなのか、そのギャップがあるような気がしている。これからの時代に求めら
れるのは何なのかを考えながらやっていかなければいけないと思っている。今日は
いい御提案をいただいた。外から来る人が増えるということは、島田の評価が非常
に高い。生まれて1か月から5か月の赤ちゃんを持つお母さんたちを対象に、4週
間連続で初めてのママになる講座をやっている。また、ネウボラといって妊娠して
母子手帳を取りに来た時から担当の保健師を紹介している。学校に入学するまでそ
の保健師がすべての相談に乗ることになっている。夫婦喧嘩から経済問題まで、子
どもの発達に限らずあらゆることを相談いただいて関係者につないでいくというこ
とも島田市はしている。子育ての施策という意味ではかなり充実し且つそれを島田
市の施策の柱として進めているところである。

もう一つ柱に据えているのは危機管理・防災である。

会 長： こういう時代に新しいインフラがいろいろできるというのはすごいことで、インフ
ラという橋とか道路というイメージだが、ゆめ・みらいパークは子育てインフラ
である。今はインスタであつという間に拡散する。私はこの地図を見て例えばここ
でマルシェなどやると県外の人たちも来てこんな場所があるのかとなる。その来た
人たちにQRコードで島田の施策を見られるようにすれば島田に引っ越してくる人
が増えるのではと想像した。

最後に私から一つ提案したいことがある。この人数でこのテーブルを囲んで「さあ
活発な議論をしましょう」としても無理。しかも1時間半という時間では一人一言
で終わってしまう。私はよく多文化共生関係の協議会などではグループワークをす
る。シマをつくってグループワークして、それぞれのグループで出たアイデアをシ
ェアして次のステップへ行く。毎回グループワークは難しいかもしれないが、この
総合計画審議会の中でもグループワークをやってみてはと思うがどうか。

染谷 市長： 採用させていただく。

会 長： 市長の承諾をいただいたので、次の回から早い段階で一度グループワークをして、
みなさんの思いのたけを出し合って、それを共有するというステップを踏みたいと
思う。

今日は短い時間であったが市の取組について、また方向性についての共通の理解が
できたと思う。それではここで進行を事務局に戻すこととする。

(その他)

興津係長より次回審議会について案内（具体的な日程は未定）

以上

20 : 30 会議終了